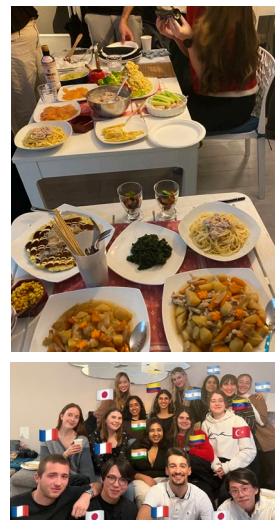


コートダジュール大学
BESIGN The Sustainable Design School 交換留学
月例報告書（2月分）

鈴木 梨恵琉

2月3日 節分の日。寿司をまた作ってほしい！といった熱い要望に応え恵方巻&日本食パーティーを開くことに決めました。日本食は本当に大人気なので想像以上に人が集まり、おもてなしの精神に火が付きまします。恵方巻セットと日本食9品、緑茶やアジアンショップで手に入れた日本酒も用意しました。どの品も好評でしたが、私のベスト味噌（日本より持参）で作ったお味噌汁とお好み焼きは特に大人気でした！一つの部屋で17人が南南東を向き、恵方巻を静かに食べ続ける様子は嬉しさと楽しさと面白さが入り混じる光景でした。



2月6日は残念なことにトルコ近郊に大きな地震がありました。トルコ出身の友達がかここでの親友であるだけに非常に心が痛みます。前に地震の話をしたこともありました。日本人としても他人事とは思えません。フランスから自国の姿を見て何も出来ないことが辛そうでした。一刻も早い復旧を祈ります。

Partnership は終盤に差し掛かり、作業を分担しそれぞれ最終成果物の完成を目指す段階になりました。私はものづくりが得意なことを活かし模型を作ることになりました。



久しぶりの手を使う作業は忙しいながらも楽しく作業できます。BESIGNのアトリエでは、ライセンスなどは特に必要ではありません。SUACでいうと木材加工室+レーザーカッターといった設備で機械はそれほど多くはありません。ホームセンターの違いや使う素材の相場価格・どのブランドの接着剤・材料が良いか等の感覚を持っていないため、このような際の買い物は少し難しいです。試行錯誤しながら良い模型が完成しました。最終発表はAntibes（アンティープ）にあるトヨタのオフィスで行なわれました。エントランスでは日本語の動画も流れていました。愛知育ちなのでトヨタの関連施設に何度か訪問したことがありますが、日本のトヨタの建物と外観の雰囲気とは大き

く違い、日本企業トヨタのオフィスにいる気がせず不思議な感覚でした。

春休みはフランス第二の都市である Lyon（リヨン）に出かけました。絹織物やジャガードで栄えた町なので、面白いテクスチャー・パターンの布にたくさん触れることができ、こちらに来てからはそういった時間が少なくなってしまうため楽しく探索ができました。そしてリヨンと言えば「美食の街」。郷土料理がメインの大衆ビストロ「ブション・リヨネ」が有名で、リーズナブルな価格でボリュームミーな料理・コースを食べることができます。二つのレストランに足を運びましたが、特に気に入ったのはゴダチーズのパイとサラダです。量が本当に多く、苦しいくらいの満腹になれます。



スイスとの国境付近にある Annecy（アヌシー）という町も訪れました。パステル調のかわいらしい町並みとアルプスに囲まれ、驚く程透明度が高く美しい湖。付近に実家があるクラスメイトが私達日本人3人を招待してくれました。彼女が運転をしてくれたので、普段の旅行では交通の便の関係で行きづらいローカルな場所も多く訪れることができました。彼女の家族もとても親切で、一日目のディナーにはフランス No.1 チーズとも言われる Reblochon というチーズを、二日目はご当地サヴォワのフォンデュと白ワインを用意してくれました。先月も述べましたが私は大のチーズ好き。小学生の頃の小さな夢を思い出しました。「いつか本当の味を食べてみたい。」まさか本場のフォンデュを振る舞ってもらえるとは思わず、バケットと共に大きな幸せを噛みしめます。感動…。こちらのフォンデュのチーズの状態は日本のものよりサラっとしていて、風味付けに白ワインが入っています。バケットのみで楽しむ点も日本とは異なります。リアルなフランス生活や家庭を知ることができた、とても貴重な三日間でした。



前期セメスターが終わり、同じく交換留学をしていたインドとアルゼンチンの皆とは一足先にお別れです。新しいセメスターを迎えるには短すぎる一週間の春休みはあっという間に過ぎ、後期プログラムが始まりました。後期セメスターからは、新たにアルゼンチンとイタリアからの留学生と、そして交換留学から帰国した生徒合わせて11人が加わり、合計25人の大人数クラスになりました。四季を感覚的に捉えることは日本より難しいなと感じますが、少しずつ暖かくなり新しい春の兆しを感じられます。